

August 7, 2020

【前日の為替概況】ドル円、小幅続落 米10年債利回り過去最低水準に

6日のニューヨーク外国為替市場でドル円は小幅ながら3日続落。終値は105.55円と前営業日NY終値(105.60円)と比べて5銭程度のドル安水準だった。新型コロナウイルス追加経済対策を巡る米与野党協議に注目が集まるなか、円買い・ドル売りが先行。米10年物国債利回りが一時0.5019%と過去最低を付けた3月9日以来約5カ月ぶりの低水準を付けたことも相場の重しとなり、前日の安値105.32円を下抜けて105.30円まで値を下げた。ただ、売り一巡後は買い戻しが優勢となり105.65円付近まで持ち直している。7月米雇用統計の発表を翌7日に控えて、方向感が出にくい面があったようだ。NY市場に限れば105円台半ばでのみ合いだった。

なお、米政権と民主党指導部による追加経済対策法案を巡る協議が続くなか、トランプ大統領は「家賃未払いによる立ち退き猶予や失業給付金、学生ローン返済猶予や給与税減税などに的を絞った大統領令を策定している」と明らかにした。

ユーロドルは3日続伸。終値は1.1877ドルと前営業日NY終値(1.1863ドル)と比べて0.0014ドル程度のユーロ高水準だった。アジア時間に一時1.1916ドルと2018年5月以来約2年3カ月ぶりの高値を付けた反動で利食い売りなどが先行した。ユーロ豪ドルやユーロNZドルなど一部ユーロクロスの下落につれたユーロ売り・ドル買いも出て一時1.1818ドルと日通し安値を付けた。ただ、小安く始まった米国株が持ち直すとリスク・オンのドル売りが徐々に優勢に。米長期金利の低下に伴うユーロ買い・ドル売りも入り、1.1894ドル付近まで値を戻した。

ユーロ円は小幅に3日続伸。終値は125.36円と前営業日NY終値(125.28円)と比べて8銭程度のユーロ高水準。全般ユーロ売りが進んだ流れに沿って円買い・ユーロ売りが先行。米国株が下落して始まったことも相場の重しとなり、23時過ぎに一時124.67円と日通し安値を付けた。ただ、ユーロドルや米国株が持ち直すとユーロ円にも買い戻しが入り125.43円付近まで値を戻した。

【本日の東京為替見通し】米雇用統計まではレンジ取引か、新興国通貨の値動きも要注目

本日の東京時間のドル円は、引き続き105円台半ばを中心としたもみ合いになるか。本日の一番の注目点は、日本時間21時半に発表予定の米雇用統計になる。市場の予想は非農業部門雇用者数変化が158.0万人、失業率は10.5%程度と予想されている。ただし、4日にトランプ米大統領が「雇用に関し、金曜日に大きな数字がでる」と発言していることで、市場は好結果が出ることを予想している。以前も同様の発言をしたときに、実際の結果も良かったことで、今回への期待も高まっている。ある程度の良い結果を市場は織り込んではいらざるが、実際に好結果になった場合には株式市場は素直に上昇すると思われる。その場合の為替市場は株買いによるドル売りになる可能性が高いが、同時にここ最近動きが活発な米債市場を注視しながらのトレードになりそうだ。

米国の追加支援策については協議が続いているが、仮に合意ができない場合でも、ペロシ下院議長が「家賃未払いによる立ち退き猶予を延長する大統領令については発令を望む」と述べていることを市場は好意的にとらえられている。問題の核心は本日も話し合いが行われる失業給付金の行方になりそうだ。

ドルの上値を抑える要因としては、来週から多くの本邦企業で夏季休業がはじまることで、休業前に輸出企業を中心にドル売り需要が根強い。仮に本日売りを抑えない場合でも、休業中に向けて上値には売りオーダーを置いておくことになり、上値が重く推移しそうだ。また、米中関係も悪化の一途を辿っていることで、両国の動きにも引き続き要警戒となる。

一方、ドルの下値を支える要因は、105.50円と105.00円に大きめのオプションがあり、オプションを利用したドル買い需要がある。昨日同様に下落局面では下値を支持することになりそうだ。

ドル円以外では、まずは豪ドルの値動きが注目される。昨日モリソン豪首相がビクトリア州の規制が、GDPに多大な影響を与えると発言した。それにも関わらず豪ドルは非常に堅調に推移し、年初来高値を更新している。本日は豪準備銀行(RBA)の四半期金融政策報告が公表されることで、豪ドルの値動きも注目される。

また、昨日はトルコリラが対ドルと対円でともに過去最安値を更新している。ランドも対円では5月中旬以来となる6円を割り込み、対ドルでも5月末の水準まで下がっている。これらの新興国通貨の値動きにも目を配っておきたい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◇ 6月毎月勤労統計（現金給与総額、予想：前年比▲3.0%）
- 08:30 ◇ 6月家計調査（消費支出、予想：前年比▲7.5%）
- 08:50 ◇ 7月外貨準備高
- 14:00 ◇ 6月景気動向指数速報値（予想：先行 84.9／一致 77.2）

<海外>

- 10:30 ◎ 豪準備銀行（RBA）四半期金融政策報告
- 未定 ◎ 7月中国貿易収支（予想：420.0億ドルの黒字、2867.5億元の黒字）
- 15:00 ◇ 6月独貿易収支（予想：113億ユーロの黒字）
- 15:00 ◇ 6月独経常収支（予想：150億ユーロの黒字）
- 15:00 ◎ 6月独鉱工業生産（予想：前月比8.1%／前年同月比▲11.4%）
- 15:45 ◇ 6月仏鉱工業生産指数（予想：前月比8.4%）
- 15:45 ◇ 6月仏貿易収支
- 15:45 ◇ 6月仏経常収支
- 20:00 ◎ 7月メキシコCPI（予想：前月比0.65%）
- 21:00 ◎ 7月ブラジルIBGE消費者物価指数（IPCA、予想：前月比0.35%）
- 21:30 ☆ 7月カナダ雇用統計（予想：新規雇用者数変化40.00万人／失業率11.0%）
- 21:30 ☆ 7月米雇用統計（予想：非農業部門雇用者数変化158.0万人／失業率10.5%／平均時給、前月比▲0.5%／前年比4.2%）
- 23:00 ◇ 7月カナダIvey購買部協会景気指数（予想：57.5）
- 23:00 ◇ 6月米卸売在庫（予想：前月比▲2.0%）
- 23:00 ◇ 6月米卸売売上高（予想：前月比4.9%）
- 8日 04:00 ◇ 6月米消費者信用残高（予想：100億ドル）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

6日 06:14 メスター米クリーブランド連銀総裁

「フォワードガイダンスについて、債券購入がさらなる刺激を提供」

「最近のデータは経済活動鈍化を示唆」

「米経済の調整で回復には当面時間がかかる」

「米国の経済活動がここ数週間鈍化していることを示す多くの兆候がある」

「米国は新たな封鎖を避けることができる」

「規制はターゲットとした地域に限らせる必要がある」

6日 07:39 マコーネル米共和党上院院内総務

「両党間では大きな隔りがある」

6日 10:55 モリソン豪首相

「失業率はピークで10%近くに達するかもしれない」

「ビクトリア州での規制が、7-9月期 GDP から70億から90億豪ドル削減されると見通す」

6日 15:11 英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨

「0.1%への据え置きは全会一致」

「資産購入は据え置きは全会一致」

「経済に対するCovid-19の直接的な影響は、予測期間中に徐々に消滅すると想定」

「2020年の第2四半期に2019年の第4四半期よりも20%以上低いと予想」

「資産買い入れは年末までに完了する見通し」

「状況が悪化すれば国債買い入れペースを拡大する用意」

「多くの労働者はすでに仕事に復帰しているが、支援計画が解けた後の雇用の見通しについてはかなりの不確実性が残っている」

「短期的には失業率は大幅に上昇し、年末までに約7.5%に達すると予測」

「7月の家計消費が年初の水準を10%未満下回っていたことを示唆」

6日 15:48 ダス・インド中銀総裁

「インドの2021年度の国内総生産(GDP)はマイナス圏の可能性」

「追加利下げの可能性は残されている」

「これまでの利下げの効果を見極める段階」

6日 18:03 ベイリー・イングランド銀行(BOE、中銀)総裁
「マイナス金利は選択肢にあるが、活用する計画はない」

「イングランド銀行はフォワードガイダンスのような選択肢も活用可能」

「英国の経済見通しには、恐ろしいほど多くの下振れリスクがある」

6日 23:18 トランプ米大統領

「新型コロナワクチンは11月3日(大統領選)頃から使用できるだろう」

7日 01:06

「給与税の徴収停止、立ち退き猶予、失業給付の延長、学生ローン再支払いオプションなどに対し、大統領令を使用できるか検討中」

6日 23:29 カプラン米ダラス連銀総裁

「第3、4四半期の健全な成長は確実だが、新型コロナ再拡大の影響で回復力はそれほど顕著ではないだろう」

「短期的にインフレは抑えられ、中期的にはデフレーション圧力が強い」

「イーールドカーブコントロールには懐疑的」

6日 23:39 トルコの銀行調整監視機構(BDDK)

「開発銀行を除く全ての外国銀行に対し、リラ投資規制の一部を緩和」

6日 23:45 トルコ中銀

「市場価格を注視し、過度なボラティリティには価格と金融安定のためあらゆる手段を使う」

「これまでの財政・金融政策はパンデミックのトルコ経済への影響を抑制」

「最近のデータは景気が加速していることを示唆」

7日 00:34 オーストリア外務省

「スペインへの不必要な渡航に対し警告を発する」

7日 02:33 カナダ外務省

「中国の裁判所が、薬物事件でカナダ市民に対し下した死刑判決を強く懸念」

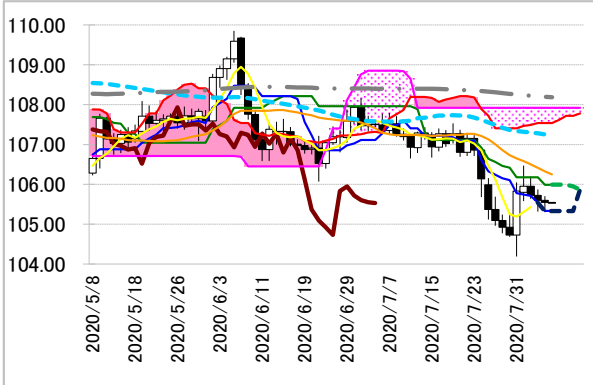
7日 03:30 トラス英国国際貿易相

「日英は重要な通商合意に向けて大きく前進した」

「20年末までの合意に向け双方がコミットする」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

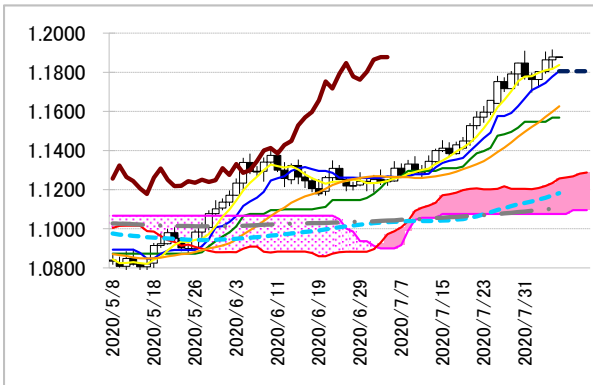


<ドル円＝転換線とともに戻す展開となるか>

下影小陰線引け。低下傾向の一目均衡表・転換線が示唆する水準の切り下げが続いた。

しかし、現状からすれば、転換線は現水準 105.33 円で底打ちし、106 円割れ水準で推移する一目・基準線付近まで戻す可能性がある。強い反発ではないかもしれないが、転換線の上昇とともに、106 円回復に近づく相場展開が想定できる。

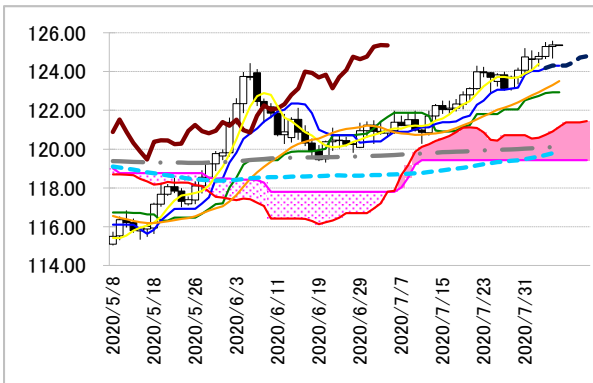
レジスタンス 1	105.99(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	105.55
サポート 1	105.06(7/31-8/3 上昇幅の 61.8%押し)
サポート 2	104.69(8/3 上昇幅の下方倍返し)



<ユーロドル＝転換線が早期に頭打ちとなるリスク弱まる>

下影小陽線引け。1.1916 ドルと年初来高値をどうにか更新したところから、いったん 1.1818 ドルへ押し返された。しかし、5 日移動平均線付近で下げ渋る底堅さを示している。わずかに高値を更新しただけだが、これで転換線が早期に頭打ちとなるリスクが弱まった。1.1836 ドル前後で上昇中の 5 日線や、1.1806 ドルへ水準を上げた転換線を支えとした買い基調継続が期待できる。

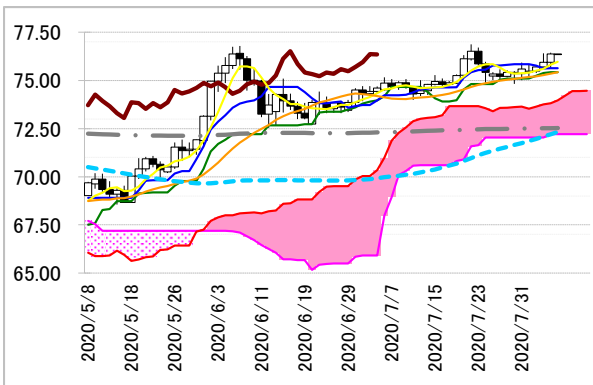
レジスタンス 1	1.1922(ピボット・レジスタンス 1)
前日終値	1.1877
サポート 1	1.1806(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロ円＝転換線を支えとした堅調な地合い維持>

下影小陽線引け。上昇継続が見込まれる一目均衡表・転換線を支えとした堅調な地合いを維持し、125.58 円まで年初来高値を更新した。いったん 124.67 円へ下押ししたものの戻しており、長めの下ひげをとまなう陽線を形成して引けた。下値の堅さの示唆であり、高値更新の流れが続くそう。

レジスタンス 1	126.07(2019/4/22 高値)
前日終値	125.36
サポート 1	124.79(8/3-6 上昇幅の半値押し)



<豪ドル円＝下押ししても 5 日線前後で下げ渋り、高値更新へ>

陽線引け。一目均衡表・転換線と基準線が集束する 75 円台で底堅さを示し、76 円台に定着しつつある。下押しがあっても、75.97 円前後で上昇中の 5 日移動平均線前後で下げ渋りそう。年初来高値 76.87 円の更新が視野に入ってきた。

レジスタンス 1	76.87(7/22 高値＝年初来高値)
前日終値	76.37
サポート 1	75.88(ピボット・サポート 1)

